



リオン株式会社 2026年3月期 第2四半期 決算説明会

2025年11月18日
東京証券取引所 プライム市場
証券コード <6823>

当社の開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。

この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

1 2026年3月期 第2四半期決算概要

2 今後の事業環境と業績見通し

代表取締役社長 加藤 公規

1. 2026年3月期 第2四半期決算概要

はじめに－事業セグメント

微粒子計測器事業

微粒子計測器

液中
微粒子計

気中
微粒子計

生物粒子
計数器



パーティクルカウンタ



半導体工場等

医療機器事業

補聴器

オーダー
メイド

耳かけ型

軟骨伝導

医用検査 機器

オーディオ
メータ

聴力
検査室



オーダーメイド補聴器



耳かけ型補聴器



オーディオメータ



補聴器ユーザー



総合病院・クリニック等

環境機器事業

音響・振動計測器

騒音計

振動計

地震計



騒音計



振動計



地震計



建設現場等



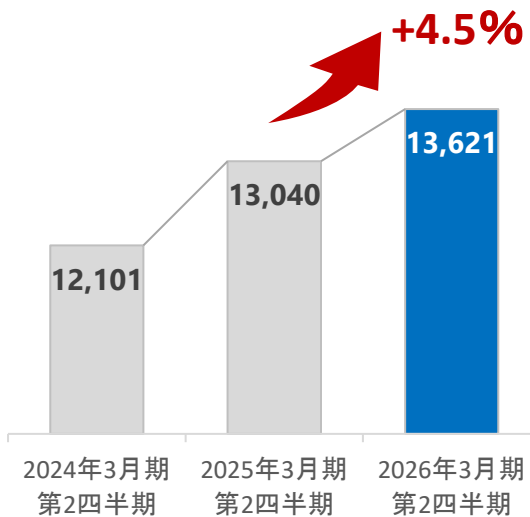
インフラ・ダム等

連結業績－決算ハイライト

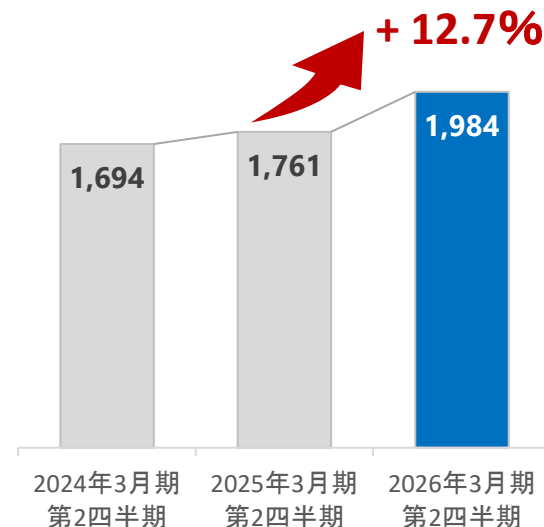
売上高・営業利益・経常利益・中間純利益のすべてにおいて過去最高を更新

中間純利益は、前年同期において本社敷地内の厚生施設の建て替えに伴う一時的な費用があったため、その反動から増益幅が拡大した

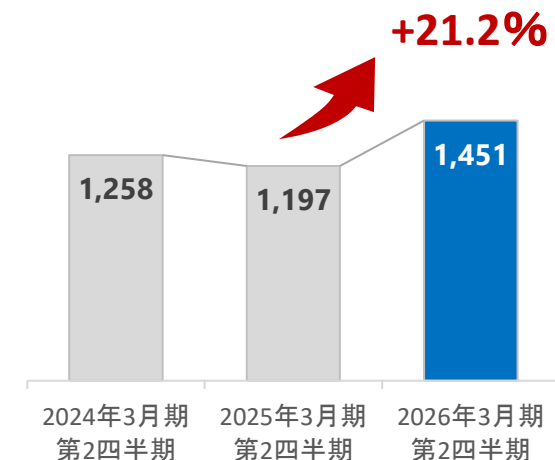
売上高 [百万円]



営業利益 [百万円]



中間純利益 [百万円]





連結業績－決算概要

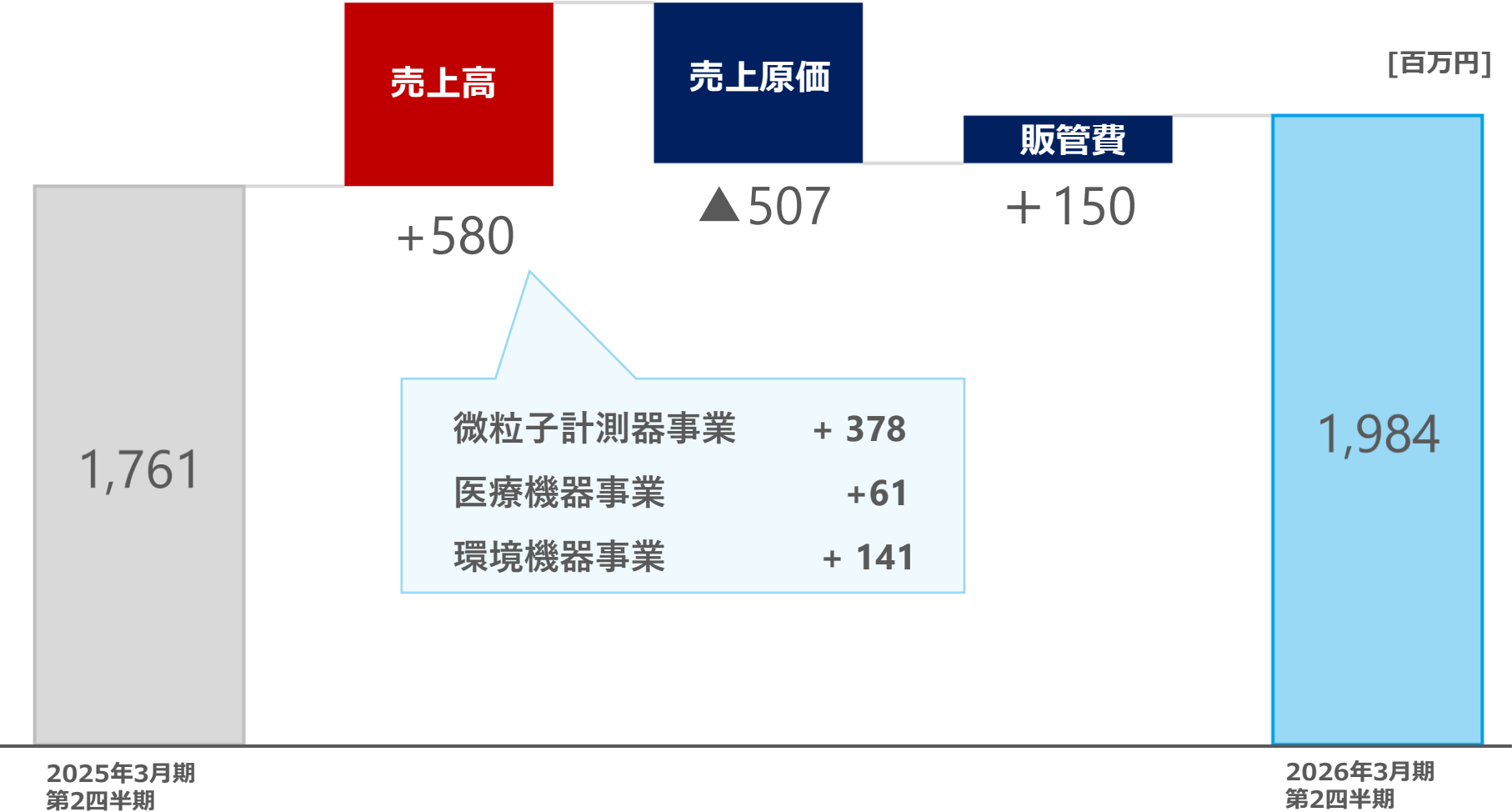
売上高	各事業で増収を達成。特に微粒子計測器事業および環境計測器事業の販売が好調であったことから、全体では4.5%増加の13,621百万円となり、過去最高の売上高を更新。
営業利益	売上高の増加に加え、補聴器の新製品に係る販売促進費用を抑制したことなどにより、営業利益は1,984百万円となり過去最高を更新。

[百万円]

2025年3月期 第2四半期			2026年3月期 第2四半期			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	13,040	100.0%	13,621	100.0%	580	4.5%
売上総利益	6,740	51.7%	6,813	50.0%	73	1.1%
販売費・一般管理費	4,978	38.2%	4,828	35.4%	△150	△3.0%
営業利益	1,761	13.5%	1,984	14.6%	223	12.7%
経常利益	1,802	13.8%	2,031	14.9%	229	12.7%
中間純利益	1,197	9.2%	1,451	10.7%	253	21.2%
1株当たり 中間純利益	97円27銭		117円77銭			

営業利益の推移

微粒子計測器事業は、クリーンルーム新設などの生産能力増強に係る費用の増加や新製品開発費用などにより売上原価が増加した。一方で医療機器事業では補聴器の新製品拡販において試聴器の再利用により販管費を抑制し、営業利益は1,984百万円と過去最高を更新。



微粒子計測器事業



[増収減益]

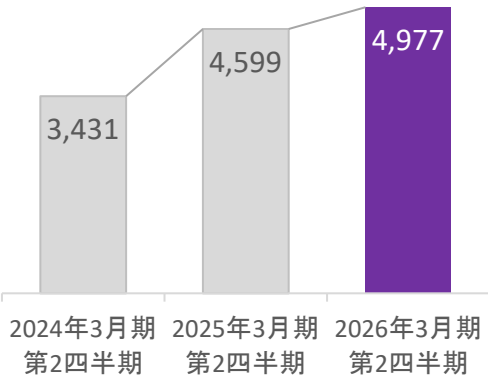
- 半導体関連市場では、生成AI関連の設備投資需要が継続して高いことにより、世界各地での設備投資（新設・増強）が堅調に推移しており、当社製品への高い需要が継続している。
- 生産能力の拡充や最先端製品の開発など、中長期的な成長を見据えた体制強化を進めたことにより費用が増加し、減益となった。

売上高 [百万円]

↑378

(前年同期比)

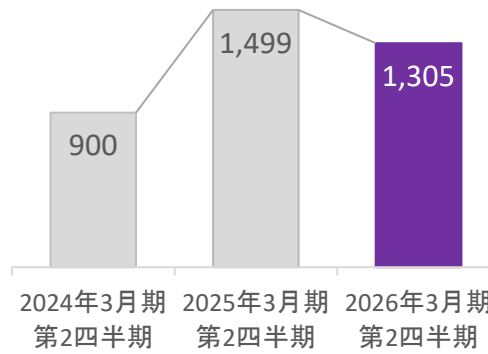
過去最高



営業利益 [百万円]

↓193

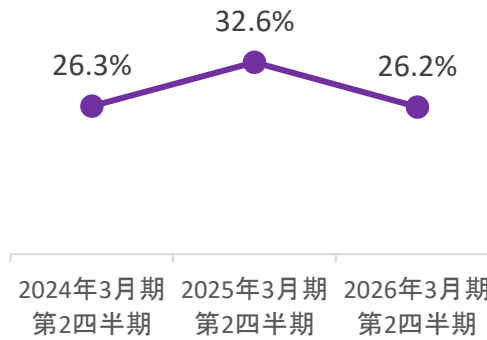
(前年同期比)



営業利益率 [%]

↓6.4pt

(前年同期比)



医療機器事業



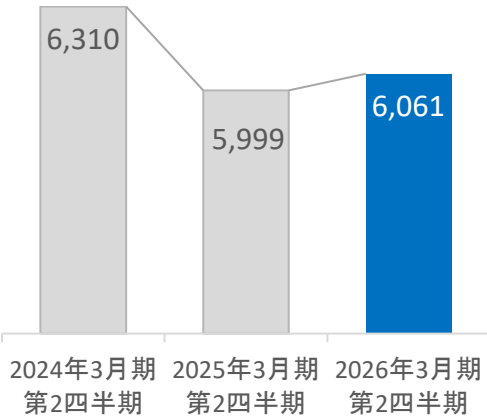
[増収増益]

- 補聴器は、継続する物価高騰による個人消費の落ち込みが見られたものの、新製品「リオネットプラスシリーズ」の拡販が貢献し増収となった。また、これに伴う販促費用を抑制したことにより営業利益は改善した。
- 医用検査機器は、健診向けの販売が堅調に推移した一方、大学病院などの設備投資が低調であったため、前年同期と同水準の売上高となった。

売上高 [百万円]

↑ 61

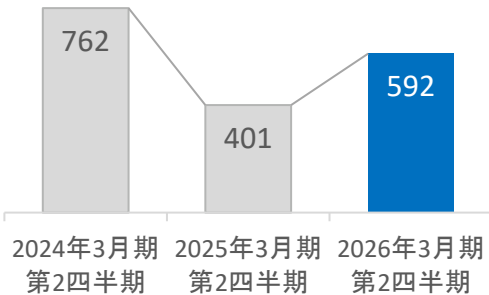
(前年同期比)



営業利益 [百万円]

↑ 191

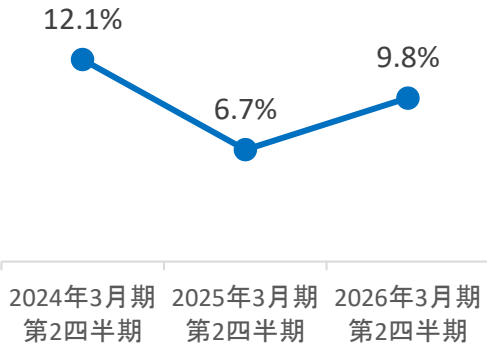
(前年同期比)



営業利益率 [%]

↑ 3.1 pt

(前年同期比)



環境機器事業



増収増益

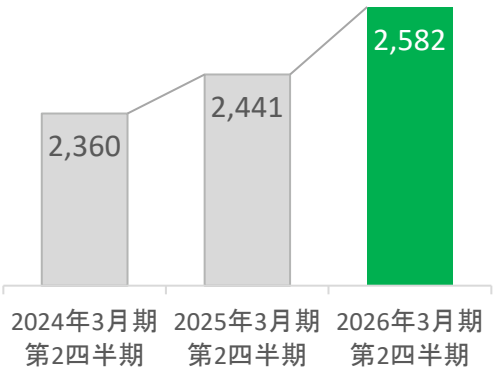
- 海外市場は、欧州および中国における販売が低調に推移した。一方、国内市場は、4月に実施した価格改定や鉄道などインフラ関連市場の設備投資需要が回復傾向にあることに加え、騒音計や振動計等の新製品による機器更新が堅調に進んだことにより増収となった。
- 売上高の拡大および前年度から取り組んでいる業務効率の改善により営業利益が回復した。

売上高 [百万円]

↑141

(前年比)

過去最高※

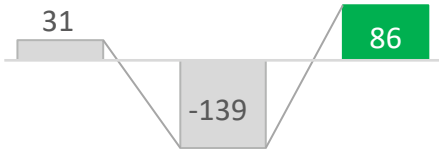


※2020年3月期の事業セグメント変更以降

営業利益 [百万円]

↑225

(前年比)

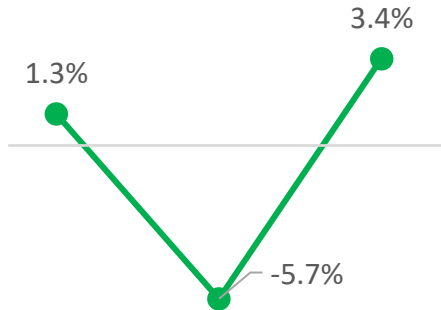


2024年3月期 第2四半期 2025年3月期 第2四半期 2026年3月期 第2四半期

営業利益率 [%]

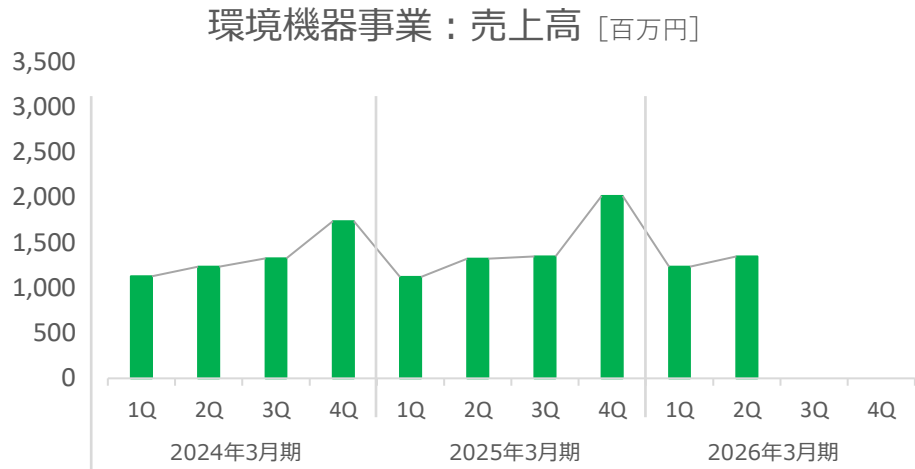
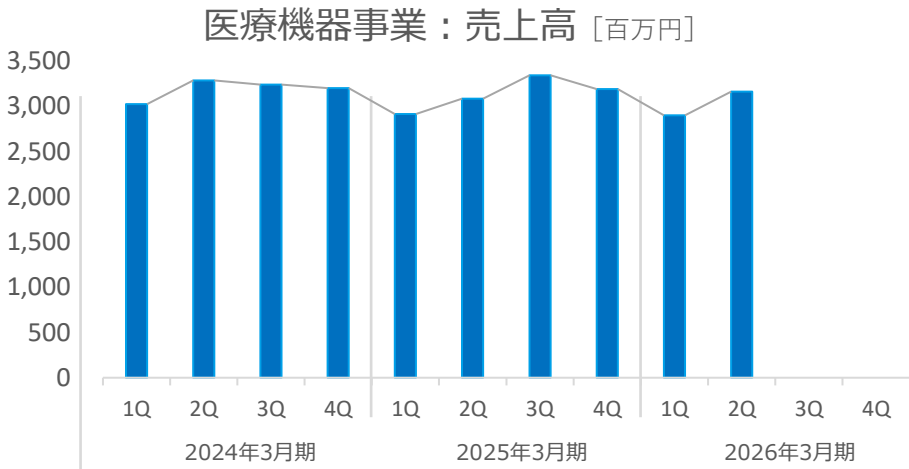
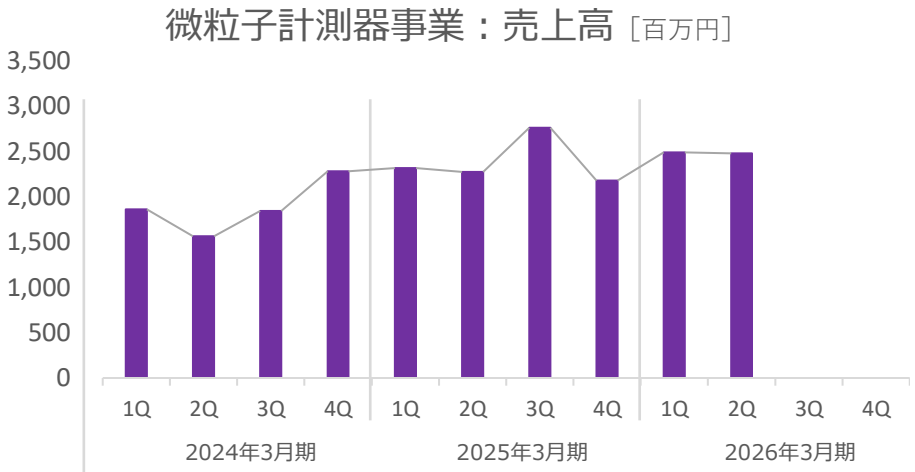
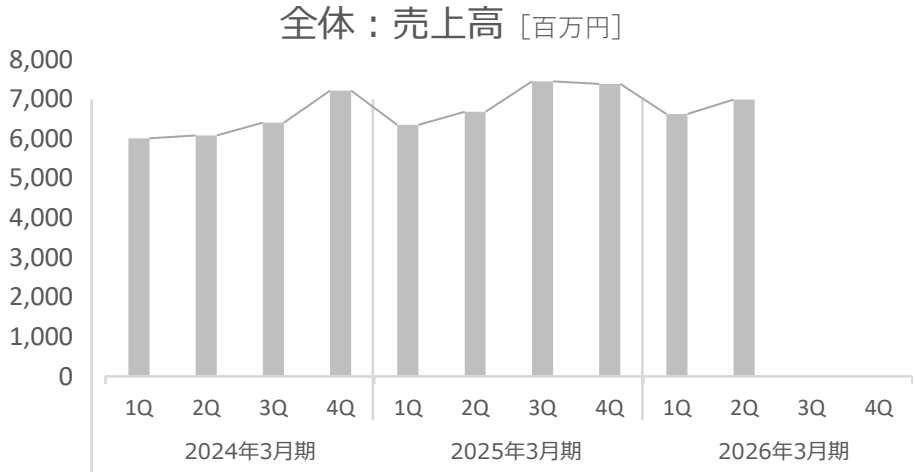
↑9.1pt

(前年比)

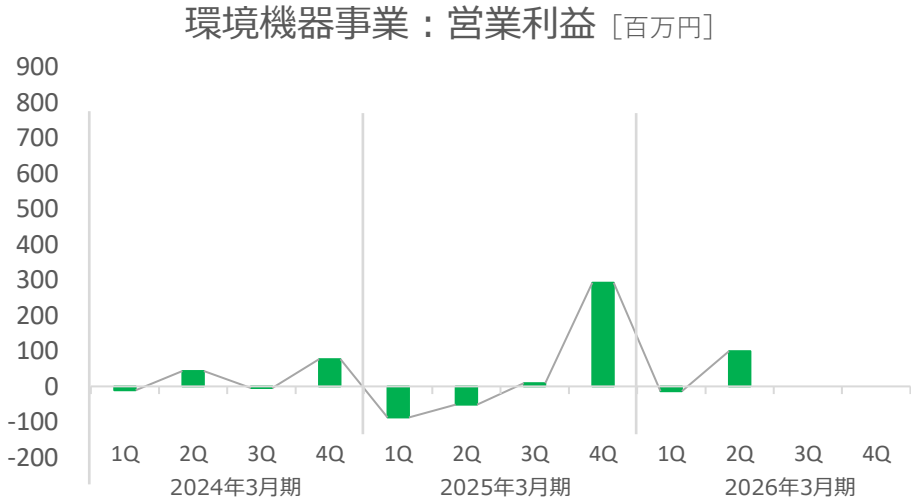
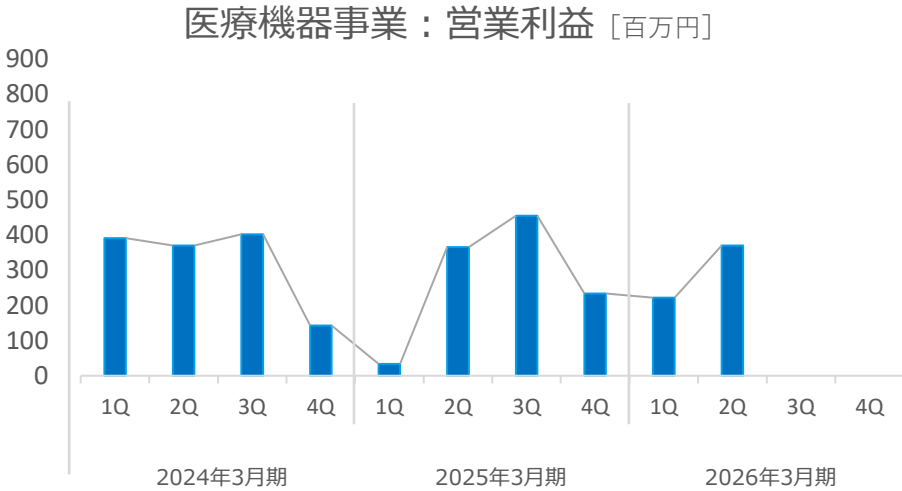
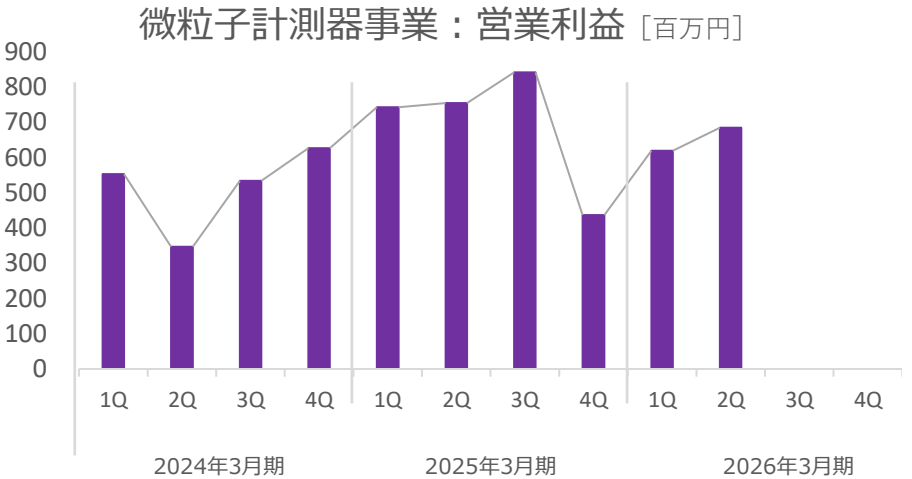
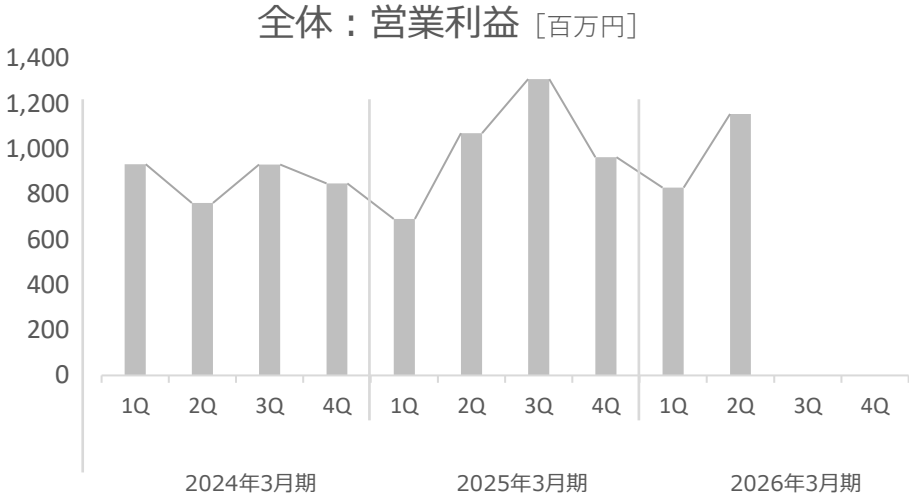


2024年3月期 第2四半期 2025年3月期 第2四半期 2026年3月期 第2四半期

売上高 四半期の推移 (事業セグメント別)



営業利益 四半期の推移 (事業セグメント別)





連結貸借対照表 (B/S)

[百万円]

2025年3月期		2026年3月期 第2四半期			
実績		実績		増減額	増減率
流動資産	22,683	23,514		830	3.7%
現金及び預金	6,014	7,379		1,365	22.7%
棚卸資産	8,034	8,243		208	2.6%
その他	8,634	7,891		▲743	▲8.6%
固定資産	16,449	16,150		▲298	▲1.8%
有形固定資産	11,840	11,597		▲242	▲2.1%
無形固定資産	2,238	2,069		▲169	▲7.6%
投資その他の資産	2,370	2,484		113	4.8%
資産合計	39,132	39,665		532	1.4%
流動負債	5,454	4,849		▲605	▲11.1%
固定負債	2,241	2,250		8	0.4%
負債合計	7,696	7,100		▲596	▲7.8%
純資産合計	31,435	32,564		1,129	3.6%
負債及び純資産合計	39,132	39,665		532	1.4%

連結損益計算書 (P/L)

[百万円]

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期		
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	13,040	13,621	580	4.5%
売上原価	6,300	6,807	507	8.1%
売上総利益	6,740	6,813	73	1.1%
販売費及び一般管理費	4,978	4,828	▲150	▲3.0%
営業利益	1,761	1,984	223	12.7%
営業外収益	69	76	7	10.8%
営業外費用	28	29	1	5.4%
経常利益	1,802	2,031	229	12.7%
特別利益	—	0	0	—
特別損失	117	38	▲78	▲66.9%
税金等調整前中間純利益	1,684	1,993	308	18.3%
法人税等	487	542	55	11.3%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,197	1,451	253	21.2%

連結キャッシュ・フロー計算書 (C/F)

[百万円]

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	
	実績	実績	増減額
営業活動によるCF	2,149	2,246	97
税金等調整前中間純利益	1,684	1,993	308
減価償却費	536	623	87
法人税等の支払額	▲337	▲764	▲427
その他	264	393	129
投資活動によるCF	▲968	▲380	587
有形固定資産の取得による支出	▲692	▲305	386
無形固定資産の取得による支出	▲117	▲89	28
その他	▲158	14	173
財務活動によるCF	▲398	▲520	▲122
配当金の支払額	▲392	▲516	▲123
その他	▲5	▲3	1
現金及び現金同等物の期末残高	5,649	7,214	1,564

2. 今後の事業環境と業績見通し

通期予想サマリー

- 微粒子計測器事業を中心に全事業セグメントにおいて増収を見込んでおり、全体の売上高および利益は過去最高を達成する見込み。

[百万円]				
	2025年3月期（実績）	2026年3月期（予想） 過去最高	前期比	
			増減額	増減率
売上高	27,877	28,900	1,022	3.7%
営業利益	4,033	4,400	366	9.1%
経常利益	4,106	4,400	293	7.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,859	3,150	290	10.1%
1株当たり 当期純利益	232円19銭	255円54銭	—	—
営業利益率	14.5%	15.2%	—	—

事業セグメント別の状況

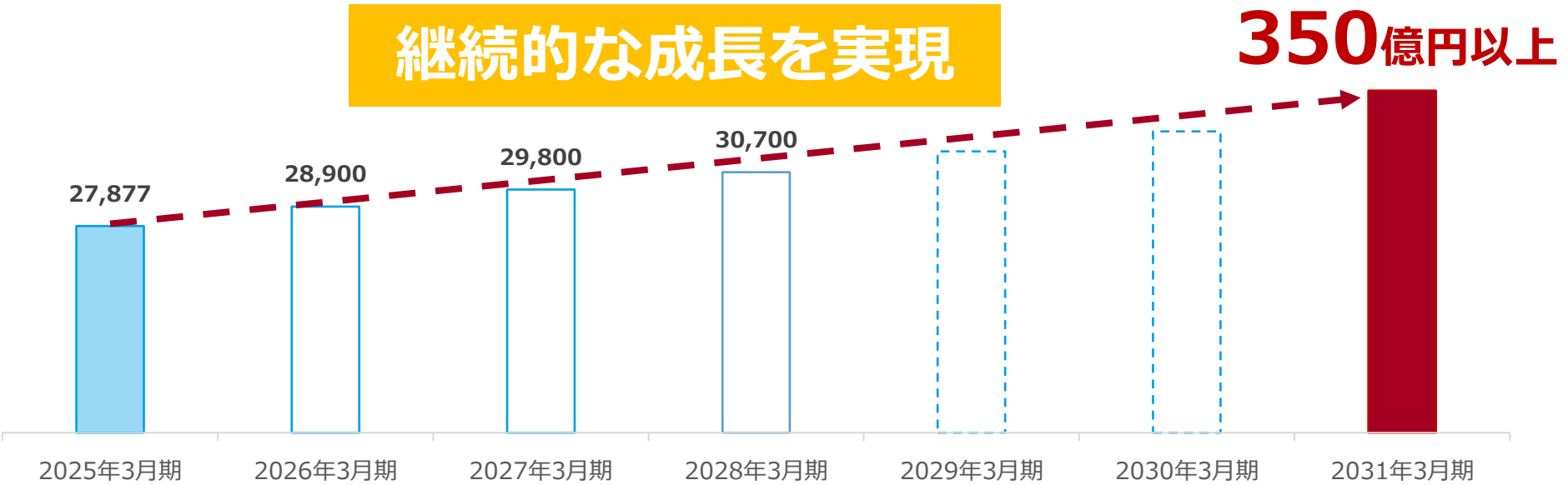
事業セグメント	製品群	市場環境及び事業状況	見通し
微粒子計測器	微粒子計測器	- 生成AI等の普及が進み、継続的な半導体市場の拡大が見込まれる。 - 急拡大した製品販売に対応すべく、メンテナンス体制の強化に引き続き取り組む。 - 次世代最先端の液中微粒子計の試作機によるデモを実施し、製品開発を進める。 - 中長期的な成長を見据えた生産能力強化と最先端製品の開発によりコストが増加。	
医療機器	補聴器	- 国内の高齢者人口は緩やかに増加。 - 継続する物価高騰により個人消費の落ち込みが懸念される。 - 市場ニーズに応じた新製品を投入し拡販に努める。	
	医用検査機器	- 高齢化や難聴と認知症の関係など社会的関心の高まりを背景に、聴覚検査のニーズが徐々に増加すると見込む。 9月に発売した重要製品であるオーディオメータの最上位機種 of 拡販に努める。	
環境機器	音響・振動計測器	- インフラ整備に関連する地震計等の更新案件が今後数年間は継続する見込み。 - 追加機能を提供する新オプションの投入により製品力を高め拡販につなげる。	

2025年度中期経営計画が目指す指標

		2025年3月期	2031年3月期
主要指標	連結売上高	278億円	350億円以上
	営業利益率	14.5%	15%以上
	ROE	9.4%	10%以上

連結売上高

[百万円]

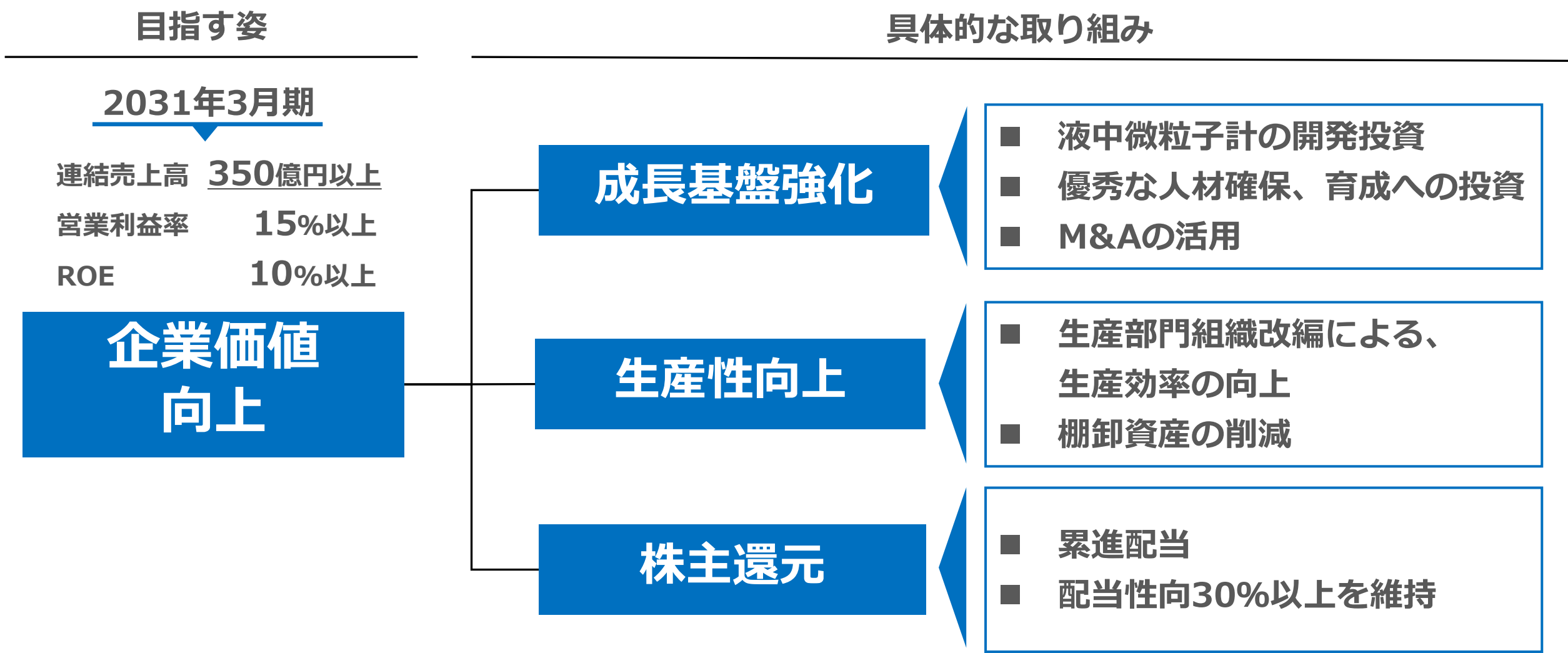


中期業績見通し

- 新たな製品開発や各市場でのニーズの高まりを捕捉することで、全事業セグメントにおいて売上高・利益ともに継続的な伸長を見込む。
- 微粒子計測器事業は、生産能力拡充および最先端製品開発への投資を継続するため、一定程度のコスト増加が続くものと見込む。

	[百万円]			
	実績	予想		
	2025年 3 月期	2026年 3 月期	2027年 3 月期	2028年 3 月期
売上高	27,877	28,900	29,800	30,700
（微粒子計測器事業）	(9,546)	(10,300)	(10,750)	(11,250)
（医療機器事業）	(12,530)	(12,700)	(12,900)	(13,150)
（環境機器事業）	(5,800)	(5,900)	(6,150)	(6,300)
営業利益	4,033	4,400	4,600	4,850
（微粒子計測器事業）	(2,779)	(2,800)	(2,850)	(3,000)
（医療機器事業）	(1,090)	(1,200)	(1,250)	(1,300)
（環境機器事業）	(163)	(400)	(500)	(550)
経常利益	4,106	4,400	4,600	4,850
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,859	3,150	3,250	3,400

基本方針：中期経営計画の迅速な遂行により経営指標を確実に達成し企業価値の向上に努める

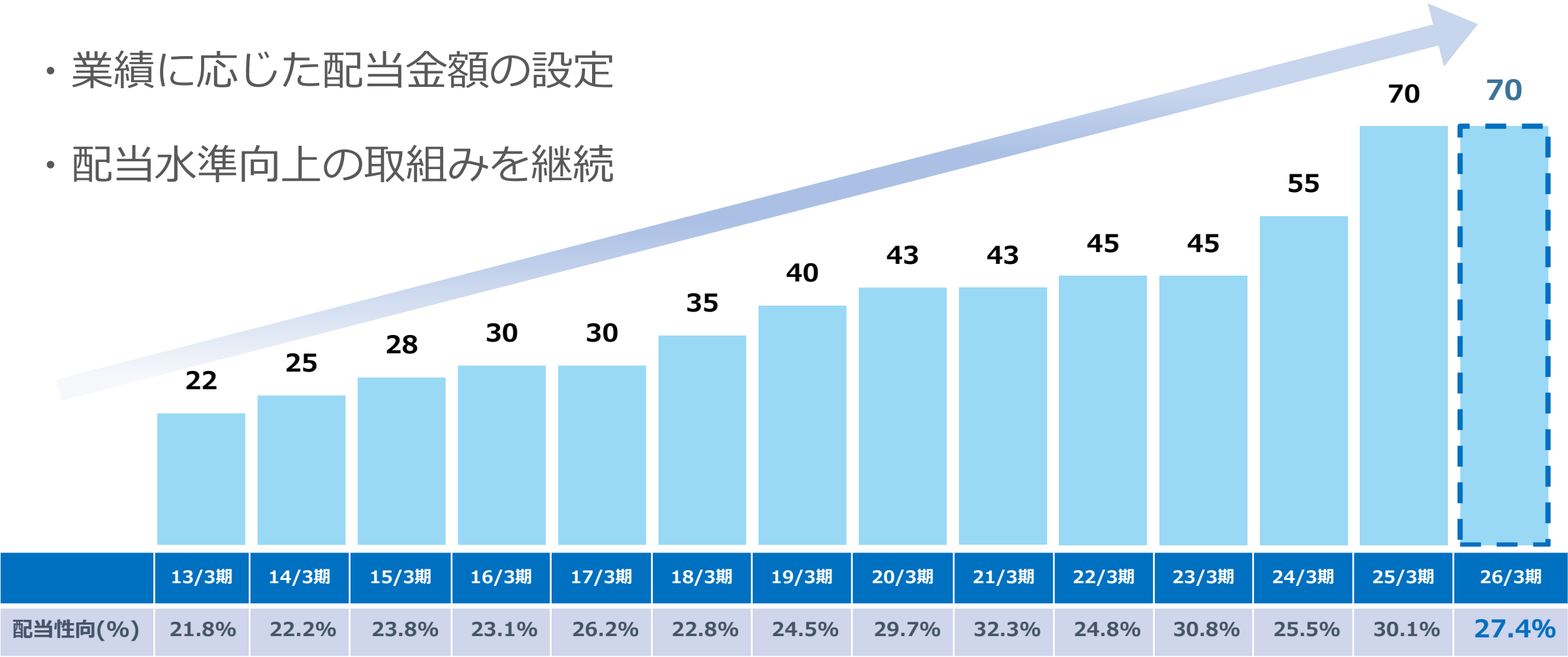


累進配当、配当性向30%以上を維持

1株あたりの配当金推移

[円]

- ・ 累進配当
- ・ 業績に応じた配当金額の設定
- ・ 配当水準向上の取組みを継続





リオンは すべての行動を通して
人へ 社会へ 世界へ 貢献する

Contributing to people, society and the world through all our activities